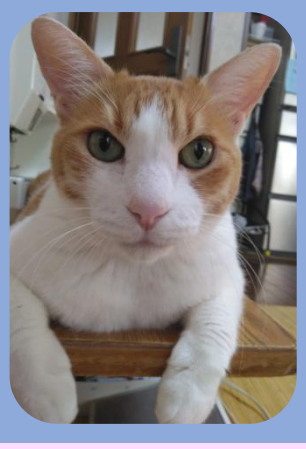
昭和 地域ニュース

No. 58

令和7年(2025年)
10月号

発行　中野区昭和区民活動センター運営委員会
編集　広報部会　昭和地域ニュース編集会議

〒164-0001　中野区中野 5-4-7
TEL：03-3385-1271
FAX：03-3385-1272
E-mail:nakano_showa@nifty.com
http://www.nakano-showa.gr.jp/



我が家のアイドル
自動販売機の奥で鳴いていた元保護猫ちゃん。怖がりで人が来ると押入れの奥に隠れてしまいます。私が帰ると玄関まで迎えに来てくれる、優しくて甘えん坊のポンタ君です。

薬師柳通り物語

薬師柳通りは、青梅街道から打越天神北野神社を通り新井薬師梅照院山門に至る、新井薬師への表参道です。かつて、花柳界として栄えていた頃のお話を、酒屋さんを営んでいた川瀬哲男さん、浩子さんご夫妻にうかがいました。

編集部：川瀬さんの略歴をお話しいただけますか。
川瀬哲男：私は昭和13年生まれです。私の家は昭和7年から、薬師柳通りの中野5丁目交差点近くで稲毛屋という酒店を営んでいました。78年続けていましたが、9年ほど前に店を閉めました。私は大学を卒業してすぐ、店を手伝い始めました。
川瀬浩子：私は結婚してこちらに来ましたが、昭和30年代のこの地域はとてもにぎやかでした。今はマンションが増え、当時の面影はありません。
川瀬哲男：東中野や新井は空襲に遭い、新井薬師周辺の料亭はみんな焼けてしまいましたが、この辺りは無事でした。お地蔵様のおかげかな、と話したものです。
編集部：昭和時代は花柳界（かりゅうかい）で有名だったそうですね。
川瀬哲男：薬師柳通りと薬師銀座の間に新井三業地という花街がありました。今は暗渠になっている小川の北側、野方村のほうでした。小川の南側は中野村でした。中野村と野方村は昭和７年に合併しました。花柳界は水をたくさん使うので、川のそばが良かったそうです。見番（検番）という三業組合事務所の看板がかかっていました。今の新井東防災広場のところです。この辺りには有名人も多く、人力車が送り迎えをしていたという話を聞いたことがあります。

編集部：当時の薬師柳通りにはどんな商店があったんでしょうか。
川瀬哲男：思いつくままにあげてみると、パン屋・クリーニング屋・電器屋・小料理屋・食堂・ラーメン屋・コーヒー店・そば屋・畳屋・自転車屋・美容院・米屋・タバコ屋・写真館・銭湯・工務店・医者など、なんでもありました。戦後は、ダンスホールもあってアメリカ兵も来ていました。
川瀬浩子：美容院は髪結さんですね。芸者さんの髪を結うのに必要でした。他にも呉服店・三味線屋さん・長唄のお師匠さんなどが、芸者さんを支えていました。
川瀬哲男：うちの酒屋はいろんな店に配達し、大忙しでした。ビールは今のようにアルミ缶ではなく瓶でしたから、一度にたくさん運ぶのが重くて辛かったです。中野駅南口に今もある料亭もいいお得意様で、よく配達しました。
川瀬浩子：うちはお酒だけでなく、味噌・醤油・砂糖なども売っていました。冬には薪や練炭も売っていました。この通りはお薬師さまの縁日の ８ の日は、ものすごい人出でした。
編集部：柳の木が植えられたのは、どのような経緯でいつごろでしょうか。
川瀬哲男：柳を植えたのは、昭和20年代の半ばでしたね。銀座の柳にちなんだとも聞きますが、当時の商店街会長が新潟の出身で、柳都（りゅうと）と言われ柳並木の下を芸妓が歩く姿が粋だった新潟市にならった、とも聞きます。

薬師柳通り
中野区立図書館「でじなか」より

川瀬浩子：その後、薬師柳通りという名前が付けられたんでしょうね。最近は落ち葉の問題などで、ハナミズキに植え替えられたところもあります。商店街は、南半分は薬師柳通親交会で北半分は薬師柳通高新会の二つになっています。町会が違うからだと思います。
編集部：花柳界の衰退と薬師柳通りの変化はどんな様子だったでしょうか。
川瀬哲男：昭和24～25年頃は戦前以上の賑わいでしたが、昭和40年代後半客が減り、昭和50年代半ばには置屋や見番などは消滅しました。商店はどんどん減り、買い物をするところはコンビニやスーパーに変わりました。道路に面しているところはほとんどマンションになりました。祭りの神輿も、熱気が少なくなってきたような気がして寂しいです。今はコミュニケーションを取るのが難しい時代かもしれませんが、商店街や町会の方々には地域のためにがんばってほしいです。

新井三業地のおおよその位置

※花柳界…芸者屋、遊女屋が集まっている地域を指す名称。花街・花町とも言う。
※三業地…料理屋・待合茶屋・置屋（芸者屋）がまとめて「三業」と称されるため、花街のことを三業地（さんぎょうち）とも言う。新井三業組合の創立は大正14年11月。

地蔵堂とお地蔵様

薬師柳通りの中野5丁目交差点近くに、毎月 ８ の日に「子育地蔵尊」の赤い提灯が掲げられる地蔵堂があります。お地蔵様の台座正面には「奉造立地蔵爲菩薩」の銘、左側には「延享三年十月　武州多麻群中野村打越」の銘があり、1746年に造立されたことがわかります。右側には「これより右　あらい村　梅照院江三丁道」とあり、梅照院の道標だったことがわかります。以前は地蔵会がありお世話をしていたそうですが、今管理とお世話をしているのは地元の小泉さん。小泉さんは毎朝きれいに掃除をし、8の日には赤い提灯を掲げていらっしゃいます。お地蔵様は穏やかなお顔にかすかなほほえみを浮かべ、行き交う人々を見守っています。

【昭和地域ニュース No.58は全戸配布しています】